

県内耕作放棄地

スイートソルガム栽培

茨城大が バイオ燃料転用目指す

茨城大は、地球温暖化防止に向けた取り組みとして、県内の耕作放棄地にアフリカ原産の植物「スイートソルガム」を栽培し、バイオ燃料に転用するための研究会を発足させた。県や阿見町などと連携し、植物の生産から燃料の消費までを地域で完結する「茨城モデル」の構築を掲げる。



高さ1.5メートルを超えるスイートソルガム

(新田教授提供)

研究会は、バイオ燃料に転用するための研究会を発足させた。県や阿見町などと連携し、植物の生産から燃料の消費までを地域で完結する「茨城モデル」の構築を掲げる。

利用することで「地域の課題にも対応させた」という。トウモロコシなどから生成されるバイオ燃料はクリーンなエネルギーとして世界中で注目されているが、食料生産との競合による食品高騰という副作用を招いた。新田教授は「食料ではないスイートソルガムは食料生産や経済と競合しない」と利点を強調する。茨城大の研究では1畝あたり約5トンのエタノールが産出できることが確認されたという。台風が弱く、不安材料もあるが、新田教授は「潜在的可能性がある植物で、実用化に向けて行政の支援が欠かせない」と意気込んでいる。

24日には水戸市の県三の丸庁舎で研究会発足の記念シンポジウムが行われる。午後1時から。問い合わせは茨城大農学部(29・8888・8666)。

【八田浩輔】

「三言三語」
知

09 知事選

今年秋の知事選を巡り5選出馬に向けた去就が注目されている橋本

軽妙に注意呼びかけ

「振り込め詐欺…用心、用心」

「振り込め詐欺師は手を替え品を替え、だましとらうとしてきます。油断大敵、用心、用心」。筑波山ガマの油売り口上師の栗原富峯さん(81)が21日、つくば市研究学園のショッピングセンター「イーアスつくば」で、得意の口上に乗せて注意を呼びかけた。

同世代の高齢者がだまされたとの報道を目にし、被害防止に役立ちたいと、つくば中央署に名乗り出た。署は

「振り込め詐欺師は手を替え品を替え、だましとらうとしてきます。油断大敵、用心、用心」。筑波山ガマの油売り口上師の栗原富峯さん(81)が21日、つくば市研究学園のショッピングセンター「イーアスつくば」で、得意の口上に乗せて注意を呼びかけた。



振り込め詐欺防止を呼びかけ、ガマの油売り口上を披露する栗原さん(つくば市のイーアスつくばで)

春季関東地区
県高校野球
24日から32校熱戦

市民会館であった。大会は県内4地区の予選大会に出場した下妻二

円
に見直され、前年06年の改定では制度改正も